

小島嶼開発途上国における交通システムの気象・災害に対する強靱化

プロジェクト期間：2019年6月26日—2022年4月30日



出典 世界銀行

プロジェクトの課題および目的

小島嶼開発途上国 (SIDS: Small Island Developing States) は常に洪水やハリケーンなどの自然災害や気候変動のリスクにさらされています。こうした異常気象はSIDSの対応能力の範囲を超えていることが多く、たった一度の災害が小国経済に壊滅的な打撃を与えることもあります。多くの小島嶼開発途上国では交通輸送セクターが主たるインフラ部門であり、社会経済において重要な役割を担いますが、大規模気象災害の影響を最も受けやすい分野でもあります。

日本—世界銀行防災共同プログラムの技術支援プロジェクト「小島嶼開発途上国における交通システムの気象・災害に対する強靱化」を通じ、バヌアツおよびソロモン諸島 (太平洋地域)、セントビンセント (カリブ海地域) およびカーボベルデ (アフリカ地域) の4カ国における交通機関の強靱性を高めてきました。

各国の交通輸送資産管理の脆弱性を評価し、より強靱性の高い理想的なものに近づけるべく、短期・中長期目標を盛り込んだ移行計画を作成しました。さらに、交通輸送当局関係者の交通輸送資産の管理能力強化のために、知見共有事業やEラーニング・コースの開発を行ってきました。

日本の知見を活用

Eラーニング・コースの開発では、京都大学の3名の教授の協力を得て、交通輸送資産のライフサイクルを通じての管理に防災を組み込むための日本の技術や教訓が盛り込まれました。改善されたEラーニング・コースは世界銀行のオンライン学習プラットフォーム「オープンラーニングキャンパス」で開講され、新たなウェブサイトと共に2022年5月に正式に発表されます。

本技術支援の対象国以外でも受講することができるため、様々なクライアント国における交通輸送当局の能力強化に貢献していきます。Eラーニング・コースの冒頭には、千葉広久駐バヌアツ共和国日本国大使によるご挨拶が収録されています。

また、カーボベルデの空港や港の自然災害に対する脆弱性の評価に当たっては、評価方法を構築する際に阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓に加え、京都大学の人間安全保障工学プログラムの研究成果が活用されました。

今後に向けて

本技術支援で作成された交通輸送資産管理の移行計画は、バヌアツおよびソロモン諸島で現在実施中の世界銀行による投資プロジェクトの準備に貢献し、セントビンセントやカーボベルデにおいても世界銀行の今後の投資事業に貢献することが期待されます。

世界銀行は小島嶼開発途上国における交通輸送機関や資産管理システムの気象災害に対する強靱性強化のために今後も支援を行ってまいります。本技術支援で得られた知見は、他の小島嶼開発途上国における交通輸送機関の強靱化にも活用されます。